

第9回

DTM講座

～Domino①～

目次

1. Domino とは
2. Domino の画面構成
3. Domino を使う
4. Domino の知っておくと便利な機能
5. Domino で VST 音源を使う
6. 最後に

1. Domino とは

今回から実際に P C 上で作曲をするツールの一つである「Domino」について説明していきます。

Domino は「TAKABO SOFT」(<http://takabosoft.com/>) さんで公開されているフリーツールです。

実際の音の打ち込みに関して特化したツールになっています。(それに関しては多分一番使いやすいんじゃないかな)

ただし、V S T 音源 (ソフト音源) には対応しておらず
また、エフェクト類も使用できません。

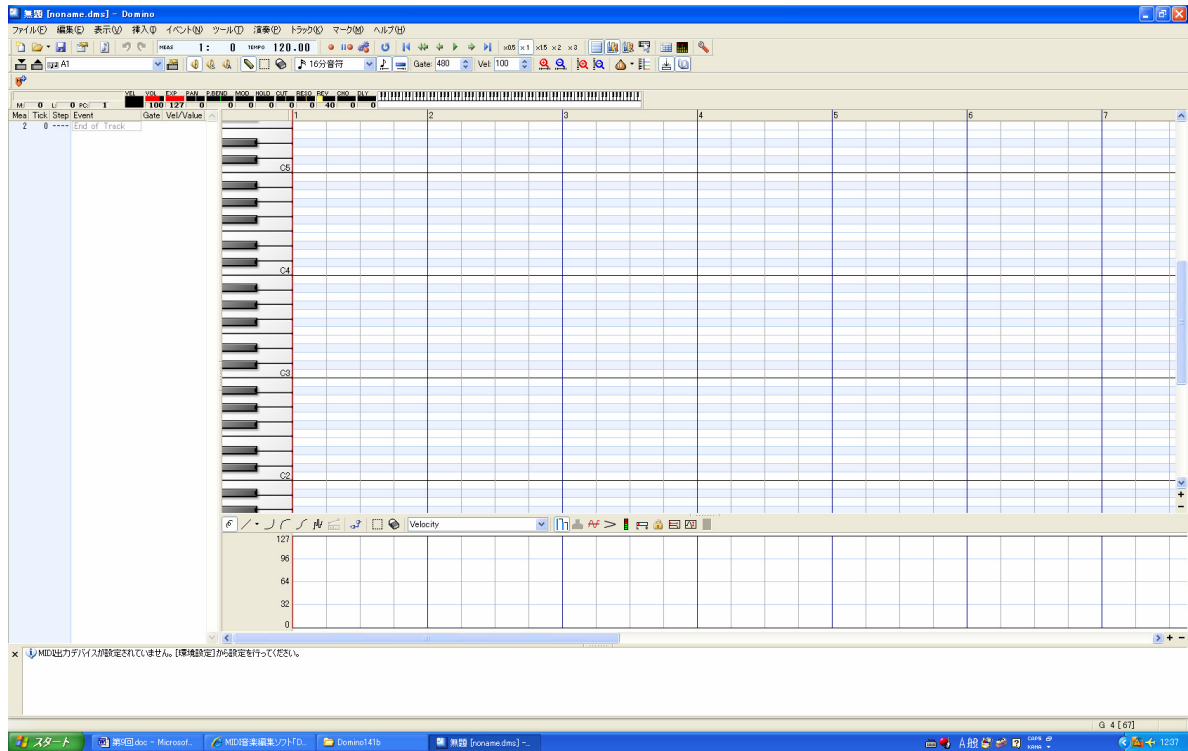
(これは出来るようにする方法があるので後で説明します)
なので、基本的には Windows 付属音源か、ハード音源を使用することになります。

(ハード音源を使うのにも定義ファイルというのが必要で、
持っているハード音源の定義ファイルがなければ自作する
必要があります。←これがすごく大変)

では中身の説明にいきたいと思います。

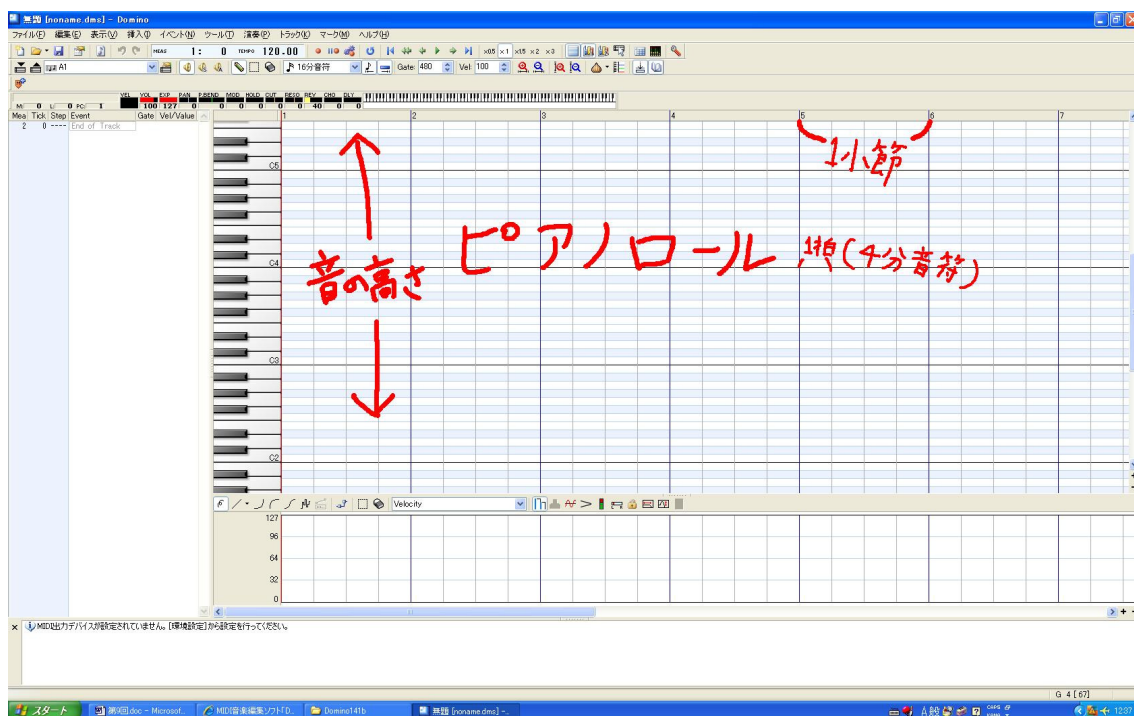
2. Domino の画面構成

まずダウンロードして立ち上げた最初の画面は多分



こうなるとおもいます。

まず真ん中に大きく見えるピアノの鍵盤のような物とそこから横にのびている白と水色の線があります。これが、ピアノロールで実際に音をおいていく画面になります。縦が音の高さ（上が高音、下が低音）、横が音の長さになっています。



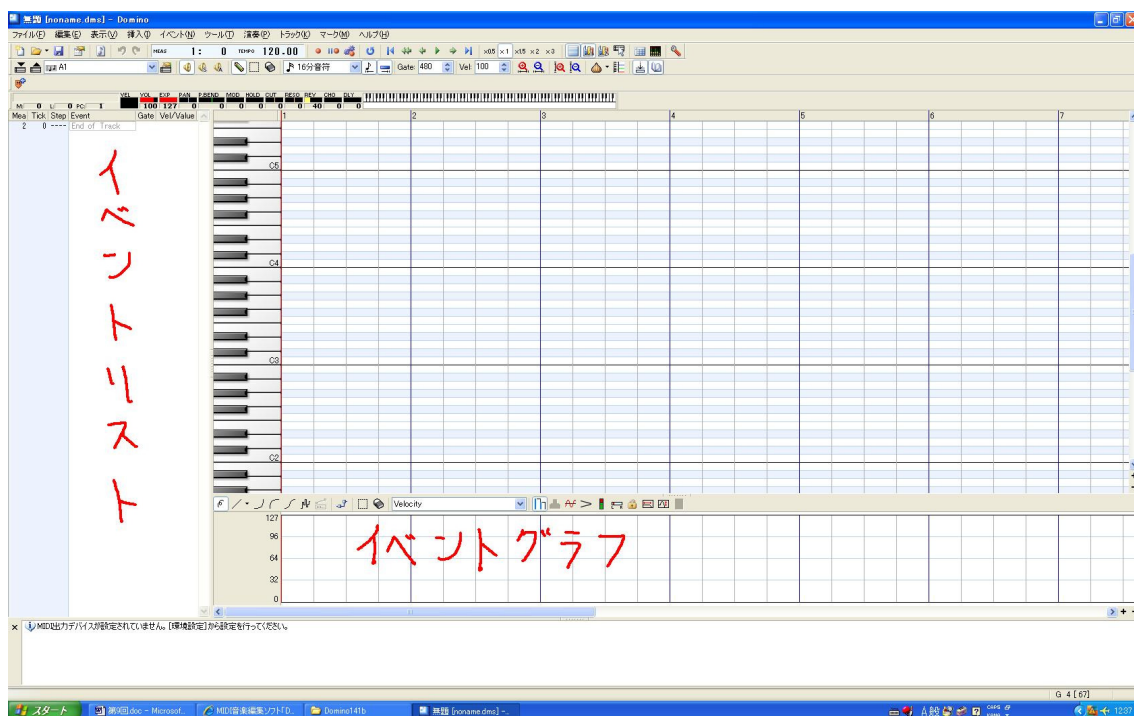
次に、その左横にあるのがイベントリストと言います。

多分普通に使っていると無視すると思いますが、

じつはこれを使うことによって細かな調整ができるようになります。(説明は後でします。)

下のほうにある画面はイベントグラフといい、ここで

音のなる位置や強弱、ビブラートを視覚的に入れることができます。



で、イベントグラフの下に

「MIDI出力デバイスが設定されていません。[環境設定]
から設定を行ってください。」

というのが表示されていると思います。

この出力デバイスというのが音源を Domino で使うのに必要なものであり、これを設定しないと音を出すことが出来ません。

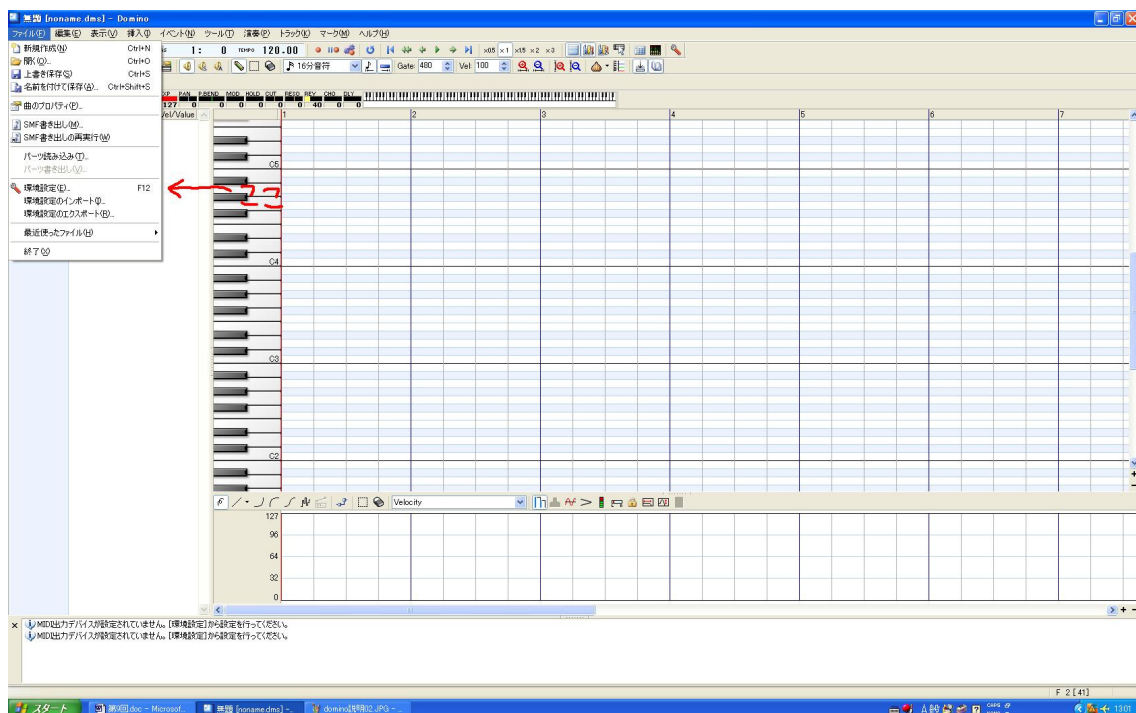
なので、次の3. でその実際に音を出していけるようになる所から説明していきます。

3. Domino を使う

ここから Domino を実際に使っていく説明をしていきます。(極力わかりやすくしていきたいと思います。)

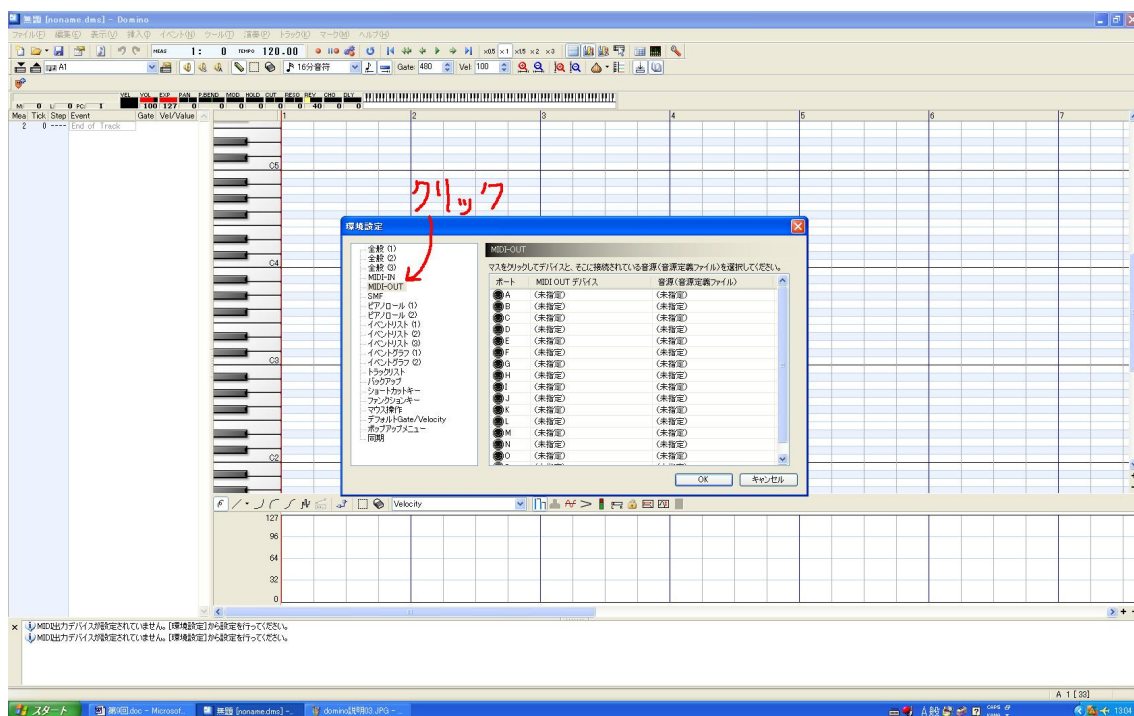
まず音ができるようにしないといけないですね。では最初
上のほうにあるメニューから

[ファイル]>[環境設定]をクリックしてください。



そうしたら小さいウィンドウが出てくると思います。

そこで今度はそのウィンドウの左側から「MIDI-OUT」の所を
クリックしてください。



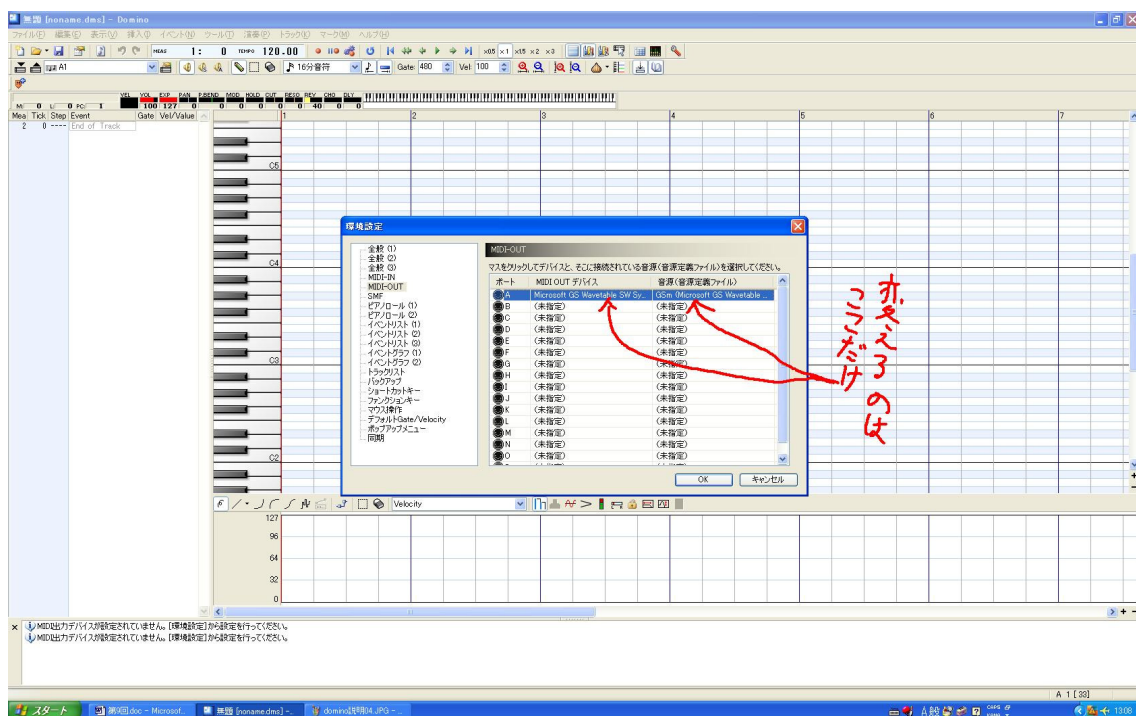
そうしたら右側になにやら未指定とたくさん書かれた物が表示されると思います。ここを設定すれば音が出ようになります。

といっても操作するのは一番上の「ポート A」だけです。

「MIDIOUT デバイス」というところの未指定をクリックして「Microsoft GS Wavetable SW synth」を選択してください。

次に、「音源 (音源定義ファイル)」の未指定をクリックして

「Gsm(Microsoft GS Wavetable SW synth)」を選択してください。

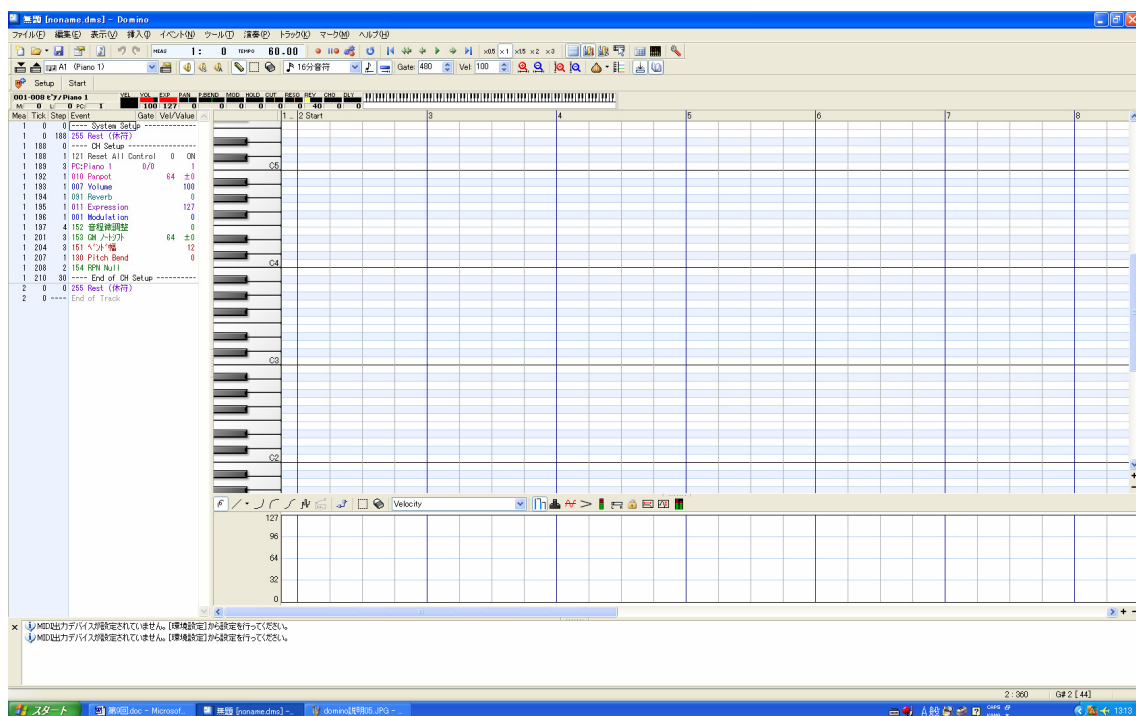


変更したら「OK」を押してくださいこれで音を出す準備が
出来ました。

ポートのB以降は基本的に音源を二つ以上使うときに必要
なもので、今回はWindows 付属音源でやっていくので必要あ
りません。また今回表示した「環境設定」の画面では他にも
色々な設定を変える事ができます。

といってもへたに変えると面倒なことになりますし、最初の
設定でなんの問題もないので説明は省かせていただきます。

そして「OK」をおしたら



右のイベントリストに色々表示されたと思います。

これで音を出せるようになりますが、いちおう左上の新規作成（メニューの下にある白紙のアイコン）をクリックしてください。

そしたら実際に音をだしてみましよう。

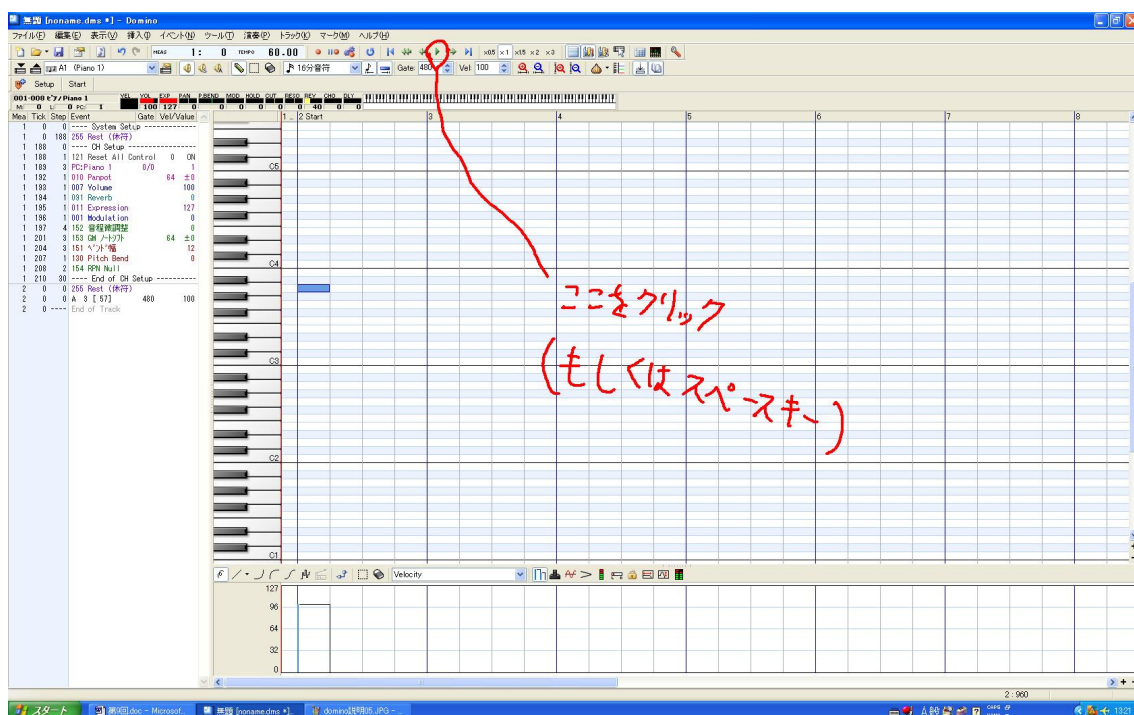
まず上の方に鉛筆の形のアイコンがあると思いますのでそこをクリックして選択してください。（選択されているならいいです。）

そうするとピアノロール上でカーソルが鉛筆の形になると思います。これで入力することが出来るようになりました。

でじっさいに好きなところをクリックしてください

(ただしピアノロールの上のほうで[Start]と書かれてる所から先だけです。今回は第2小節から先)

それでクリックしたら、青い棒のようなものが出てきたと思います、これがピアノロールでの音符のようなものになります。そして上の方にある「▲」みたいなアイコンをクリック(もしくはスペースキーを押す)すれば再生します。



どうでしょうか？先ほどおいた音が再生されたと思います。

なればもう準備は完璧になります。

では次に楽器の変え方を説明します。

横のイベントリストの中に「PC:Piano 1」というのがあると思います。そこをダブルクリックしてください。

そうすると小さなウィンドウが表示されたと思います。ここで楽器を変えることができます。(楽器の説明は前のを参照) 右のマップというのが楽器の種類、真ん中のPCというのがその種類の中でのタイプ、バンクがその種類の中でも細かく分類されたものになっています。

そして楽器を選んだら下の「OK」を押してください。

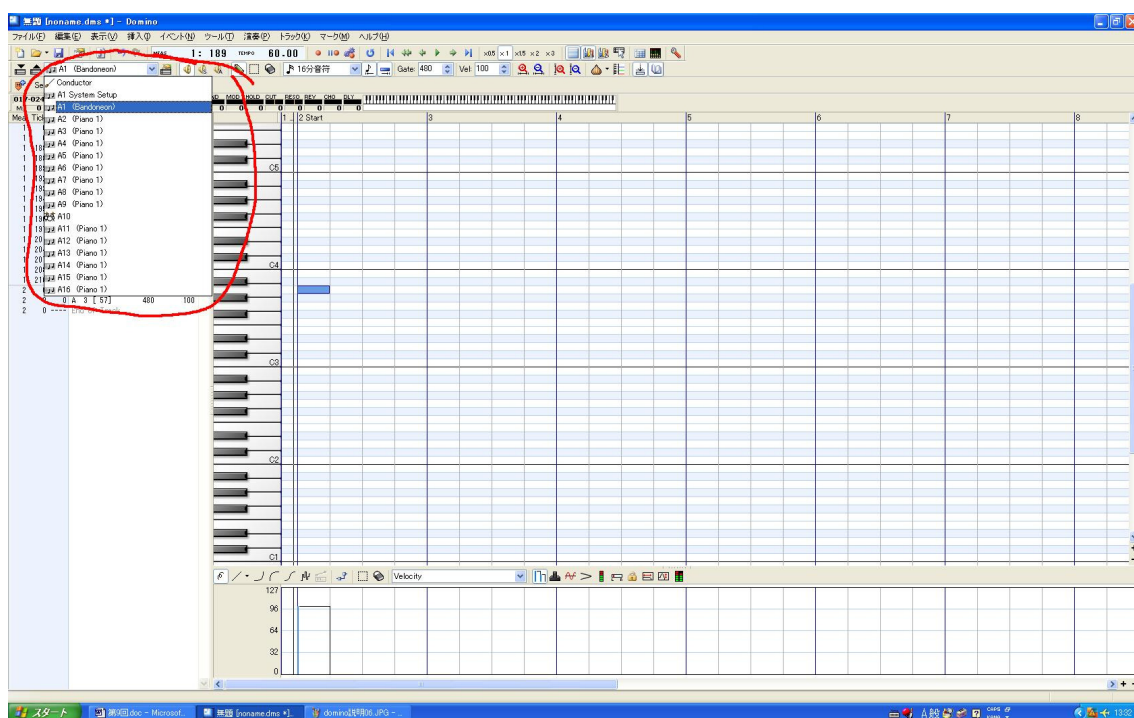
そうしたらイベントリストで「PC:～」と選んだ楽器の名前に変わっていると思います。これで変更完了です。

そうしてら再生をしてみてください、先ほど入力した音符の音が変わっていると思います。

でもこれでは楽器を複数鳴らせないと思うかも知れませんがちゃんと使えます。

画面の左上に[A1 (楽器名)]と書いてあるのがあると思いますのでそこをクリックしてください。

そうするとズラーっと表示されたと思います。



これがいわゆるチャンネルというもので、今までは「A1」
を使っていたというわけです。(環境設定は全部に適用)
では「A2」をクリックしてください。

そしてさっきと同じように音を入力して(さっきとは違う高
さがいいです) 再生してみてください。

すると2種類の音が出たと思います。

これで複数の音を使う事が出来るようになりました。

またさっきの選択で「A1 System Setup」というのがあった
と思いますがそこはスルーください。

もう一つ「Conductor」というのがあると思います。

そこは曲のテンポを変えるための部分になります。

では実際に変えてみましょう

まず「Conductor」の部分をクリックしてください。

するとイベントリストに「Tempo」と書かれた物が2つある
と思います。ここでは下のほうにある「Tempo」を変えます。

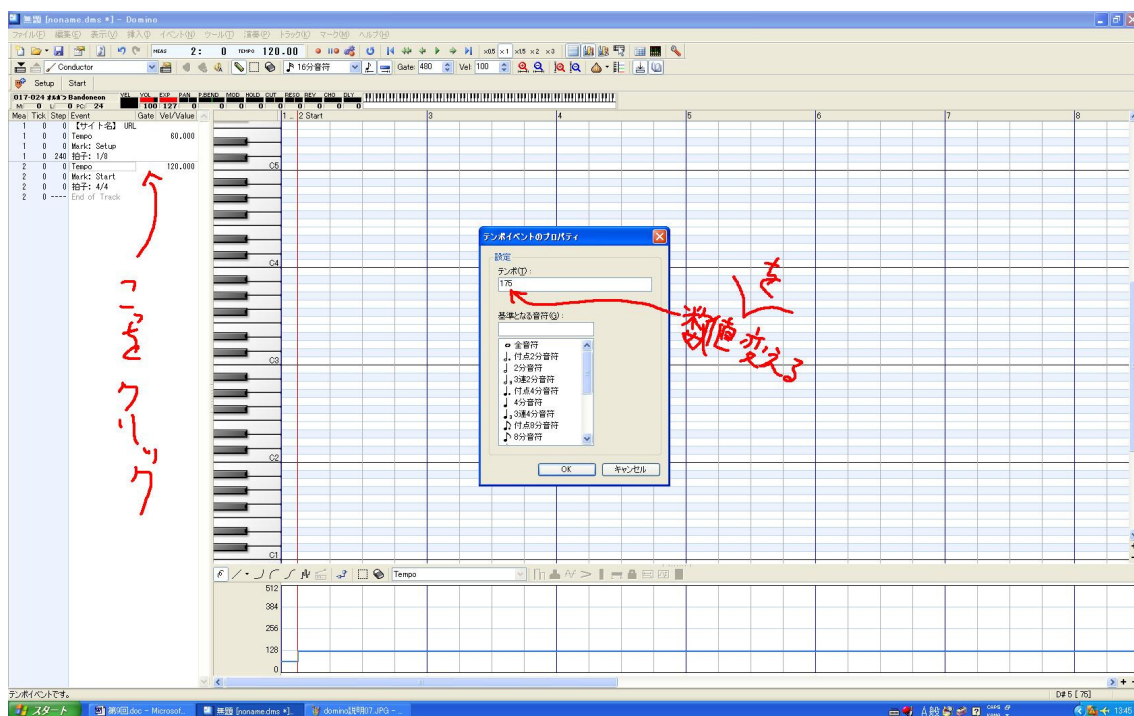
**(上のほうは最初の設定を読み込むのに使うものなので変
えると綺麗に曲を再生できなくなってしまう可能性があり、
基本的に触らないようにしてください。)**

下の方の「Tempo」をダブルクリックすると小さい
ウィンドウが表示されると思います。

そこで任意の数値を入力して「OK」を押してください

そして再生すると曲の速さが変わっていると思います。

(少し長めに音符を入れないと分からないかもしれません)

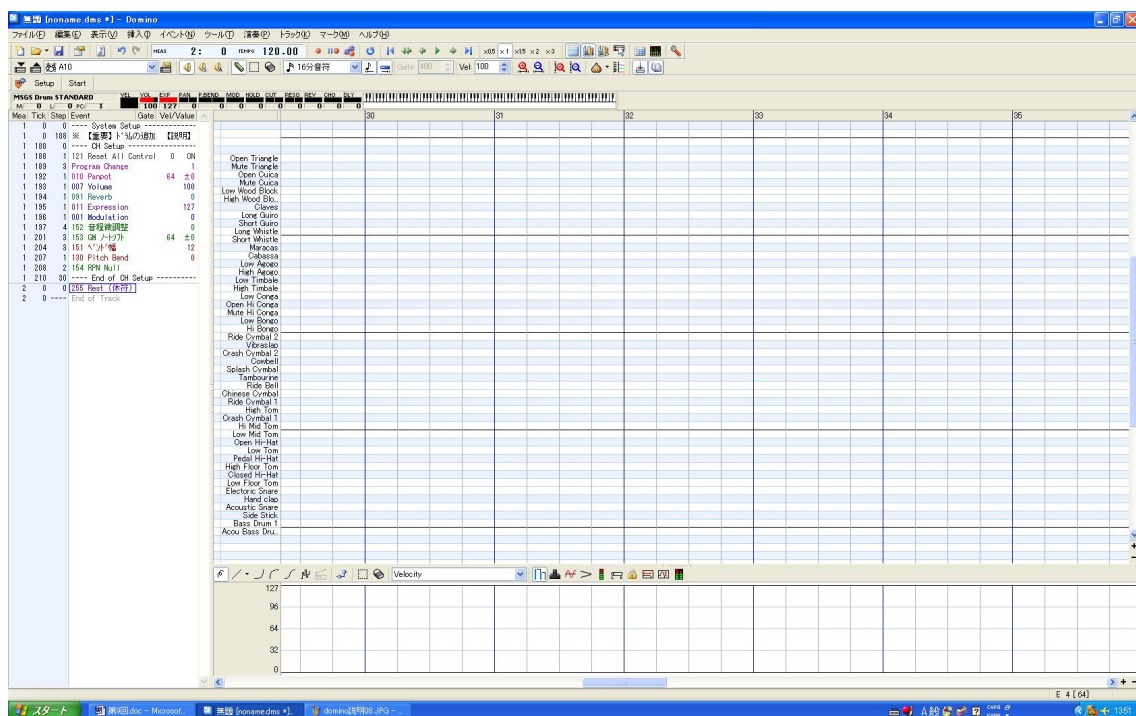


ちなみにこの数値の意味は

「1分間で4分音符がならされる個数」(今回の設定の場合)
という意味になっています。

まああまり意味内容に見えますが曲の長さの目安にはなる
と思います。

つぎに「A10」のアイコンがドラムのようなものだったと思
いますが、ここはドラム専用のチャンネルになっています。



このような画面になり基本的に構成は変わりませんが
ピアノロールがなくなり名前が書かれています。

(各種類については「楽器の知識」を参照)

縦が音の高さではなく鳴る音の種類になっただけです。

基本的にドラムはこの「A10」だけになります。

(設定で他のチャンネルで使えるようにも出来ますがドラムを2つも使うのはないと思いますので割愛します。)

次にイベントグラフについての説明をします。

まず「A1」に戻ってください、そして先ほど入力した音を長くしてください。

(長くするには音符の端っこにカーソルを合わせてドラッグしてください)

最低、1小節分くらいにはのばしてください。

そうしたら下のほうにあるイベントグラフで「Velocity」となっていると思います。

これは音の強さについてのイベントになります。

実際に変更してみましょう。

The screenshot shows a music software interface with a piano roll on the left and an event graph on the right. The event graph displays a blue bar representing the velocity of a note. Handwritten red annotations include a circled '1' pointing to the velocity bar and the text '32をクリック' (click 32), and a circled '2' pointing to the end of the bar with the text '32<511の所でドラッグ' (drag at 32<511).

図のようにしたら、音符の色が薄くなったと思います。

この状態で再生してみてください。

かなり音が弱くなったと思います。今度は 120 あたりで

ドラッグしてから再生してみてください。

今度はかなり強くなったと思います。これがベロシティでこ

れは個々の単音全てに設定することが出来ます。

(ドラムでも同様)

次にイベントグラフのアイコンで赤い波形のところを

クリックしてください。

これは「Modulation」というものでビブラートを表現します。

The screenshot shows a music software interface with an event graph. The graph displays a series of notes with varying velocities. A red dashed line is drawn across the graph, and a blue line is drawn under one of the notes. Handwritten Japanese text in red ink provides instructions: ② 最初は0で127に行くようドラッグする (Initially, drag so that it goes from 0 to 127) and ① このをクリック (Click this). The interface includes a menu bar, a toolbar, and a piano roll view.

図のようにしたら再生してください。

音の後半に行くと音に揺れが出てきたと思います。

これでビブラートをかけられるようになります。

またこの項目では最後を「127」のままにしておくとその後の音もビブラートがかかり続けるので使い終わったらちゃんと「0」の位置に戻しておいてください。

「Modulation」の横にあるアイコンはそれぞれ効果がありますが全部同じで「0」では何もかからない状態、

「127」で最大でかかっている状態になります。

- ・「Pitch Bend」・・・実際になる音の高さを変化させる
- ・「Modulation」・・・音にゆれを入れる
- ・「Expression」・・・音量を変える
- ・「Hold」・・・実際に鳴る音をのばす
- ・「Panpot」・・・実際に鳴る音の位置（左右）を変える

これが基本的に使うイベントになっています。

これらを使うことによって楽器をリアルにすることが出来ます。

雑記

今回から Domino についての説明になります。

といっても①はすでに Domino をやっている人にとっては知っている内容になっていると思います。

次回は細かい機能の方を説明していこうと思います。

あと個人的に「これは教えなくても大丈夫だろ」という所は省いていくのでそういう所にかんして知りたい場合は個人的に私の所に聞きに来てください。

(え？面倒だって？そんな事言うと、**巫女服着せて神社に強制連行しますよ？**)

では、今回はこれで終了です。

by.....巫女好きの人